

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300795		
法人名	社会福祉法人 伊勢湾福祉会		
事業所名	グループホーム 白子マリン		
所在地	鈴鹿市南若松町2番1号		
自己評価作成日	平成 27年 10月 14日	評価結果市町提出日	平成28年2月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470300795-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 11 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白子マリンの理念“和やかな和・助け合いの輪・ふれあいの輪”のもとグループホーム内、入居者・職員共に和やかに過ごしています。散歩・買い物に出かけると声をかけて下さり温かく見守って頂いています。またリビングから見渡せる海の景色は素晴らしいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近鉄白子駅から北東の海岸沿いに建てられた事業所は、松林に囲まれたリゾートエリアにあり、静かで空気のきれいな環境である。母体の関連施設が並立され何かと連携をとり助け合っている。また、事業所の階下には南部包括センターがあって、何かあっても相談が可能で安心感がある。ホームの入口には伊勢型紙で作られた理念『和やかな和、助け合いの輪、ふれあいの輪』が飾られ、職員も利用者も共に意識合っている。職員は、利用者のできるところとできないところを見極めながら日々支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の出勤時に確認を行ない易いように、理念を事業所入口の見やすい位置に掲げ、新職員にも説明し、常に理念を心に留めて実践につなげている。	法人の理念とは別に職員間から考え出された理念は、職員同士・職員と利用者・利用者同士の間でも互いに意識しあって、何かあると理念を指さして「あれが大切！」と言い合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の一員として、お祭りや行事に参加している。地域の皆さんや子供さん、ボランティアさんの来訪や手作りのお菓子を届けてくださったり、近くの商店や朝市の買い物などに出かけ交流している。	自治会に加入してホームの便りを回覧してもらい、知名度が得られてきた。地域の様々な行事に利用者が参加すると地域住民が温かく迎え入れてくれ、場所を譲ってくれる。自治会長はじめ地域の支援が有難いと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の回覧に”白子マリンだより”を挟み込んで頂き認知症の方が穏やかに生活されている事を発信したり、外出時に交流して理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年に6回民生委員・自治会長・利用者・家族様代表・地域包括支援センター職員が参加し運営推進会議を開催している。現状報告と今後の取り組みなどを紹介し、話し合いや意見を頂き運営に生かしている。	運営推進会議は毎回会話が盛り上がり、ホームにとっても出席者にとっても貴重な機会となっている。自治会長が親身になってホームのことを思い、地域に伝えてくれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の来訪が毎月ありアドバイスを受け改善に繋げている。保険者とは常日頃、連絡を取り事業所の現状を伝えており、何かあれば気軽に相談できる関係を築いている。	運営推進会議の後、鈴鹿亀山広域連合に出向いて議事録を届け、ホームの現状を伝え連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で毎月開催される拘束委員会に代表が出席し、その内容を職員会議で伝達し、どのような事が拘束に当たるかなど、折に触れて確認し身体拘束ゼロ作戦に取り組んでいる。	毎月開催される法人内の拘束委員会にグループホームの代表として参加した人が持ち帰ったテーマについて、職員会議で伝達研修をしている。現在のところ身体拘束はないが、言葉の拘束についても常に意識合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームの内部研修において高齢者虐待防止法について学び、どういう事が虐待に該当するか等意見交換し、身体に不自然な点がないか等、確認しながら業務に当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に関する制度利用の必要な事例はないが、必要時に活用できるよう、内部研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約時には不安のないよう詳しく説明している。また制度改定時には家族会などにおいて説明を行い、納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月の家族会には、家族から意見や要望を聞くようにしている。また面会に来所される家族には近況をお伝えしながら意見を頂き運営に反映させるようにしている。	2ヵ月毎の家族会では、個々の利用者の介護記録を家族に見てもらい意見や要望を聞いている。また、機関誌『白子マリン通信』を毎月発行し、近況を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している、職員会議では、行事やケースの検討・業務の効率化・改善点等幅広く意見の交換を行い運営に反映させている。	今年度から職員一人ひとりの自己評価を実施していて、介護の基本を再確認するために役立っている。日々のケアで疑問に思ったことや意見を申し送りノートで共有し、職員会議で検討している。	今年度から開始した職員の自己評価をもとに年に一度は個別面談を実施して、職員の一人ひとりの意見にも注目し、全体のレベルアップにつなげられることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の人員不足や業務内容等の問題点はあるが、職員個々の労働条件で契約し働きやすい体制になっており、随時心配事があれば、個別に相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修の機会を設け、内部研修では伝達研修や計画に沿った研修を行い、職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部事業者との交流はないが、同一法人内の他事業者とは、勉強会や委員会・行事・レクリエーションを共にするなどして交流し、業務に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始の初期段階においては、信頼関係構築が重要と考え、本人の思い・生活歴・心配事等聴き取り、安心感につながるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、家族の思い・今までの関わり・困っている事・今後の希望等、話しやすい雰囲気作りにつとめ、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様との話し合いの中で希望されている内容を把握し、必要に応じて介護保険以外の情報なども紹介して、他の入居者様と馴染めるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食を共に摂り、できる範囲での家事を共に行い家族的な雰囲気を作るように心掛けている。仕事のできる方には人の役に立っているという思いを感じていただくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の介護においては職員が担っているが、本人の精神的な安定・幸福感を得るために、家族の支えが欠かせない事を折りに触れお伝えし、共に本人を支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出向く事は難しいが懐かしい方々との電話での会話支援や面会時には日頃の様子をお伝えしたり、一緒に撮影したスナップ写真を差し上げたりと、ふれあいが深まるような対応に努めている。	個人的な馴染みの場所への外出は家族に協力してもらっているが、関連施設に入所している親族や知り合いを訪ねる利用者もある。地域で開催されるいろいろな祭りなどは以前の馴染みである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個別の人間関係を把握し、共に生活し楽しさを共有する仲間であることを実感できるように務めている。体調の優れない方がある時、他の利用者にお知らせすると声をかけに訪室される方がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体特養に転入居された方の所へは他利用者様と一緒に訪問して関係性を大切にしている。また家族様には必要があればいつでも連絡を頂くようにお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から本人の思いや希望を汲み取り、意向に沿えるようにしている。また一人でゆっくり過ごしたい方には気持ちを尊重して見守っている。	思いや意向は一人ひとり違って当たり前と考え、できる限りそれぞれの生活スタイルを大切にしている。居室から出られない利用者にも無理強いはせず見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人お一人の生活の歴史や住まい・馴染みの土地等の話を本人・家族様から、お聞きし、利用者を理解できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況や変化などケース記録等に記入し、チームで情報を共有し状態把握に努めている。また体操や制作物・習字など一人一人の得意な事を把握して力を発揮できるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は利用者・家族様と常に会話を持ち、また個別に介護計画モニタリング課題抽出表を作成し、その上で話し合いを行い介護計画を作成している。	基本的には6カ月毎に行う介護計画の見直しには、職員全員の意見を反映させるためモニタリング課題抽出表を作成して、客観的で漏れのない介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースファイル・24時間シート・個別申し送りノート等を活用し、情報を共有し創意工夫を行い実践の統一性やプランの見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体施設の行事や隣接するデイサービスのレクリエーションに参加するなど楽しんでいただいている。また介護保険だけでなく、他制度の利用可能な方には情報を提供して活用を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の江戸祭り・地藏盆等に出かけたり、祭りの山車や獅子舞の来訪を楽しんで頂いている。また地元の商店や朝市にも出かけ、暮らしを楽しめるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医には2週間に一度往診を受けている。また個別の医療機関を希望される方は定期的に通院され適切な医療を受けて頂いている。	協力医には日々の健康観察を絶えずファックスで伝えている。定期的な往診だけでなく協力医が隣の関連施設への往診時にもホームに立ち寄って診察してくれることもあり、安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職員は在籍していないが、母体法人の特養・通所介護の看護師とは利用者の状態の変化や気になる事があれば、連絡相談し支援を受けられるような体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは密接な関係を保っており、情報交換を行っている。入院された時には、随時訪問して状態把握に努め、退院後の支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けては、本人家族様の意向を尊重し、事業所でできることを解りやすく説明してケアに努めている。状態の変化に伴い医療と連携を密にして、家族様と共に支えていく方針で取り組んでいる。	入居時に看取りについての説明と状態悪化時には確認のために『終末期の対応についての同意書』をもらってはいるが、状態の変化に伴い医療機関や家族と連携を取り支援している。今年度は1名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や緊急時対応マニュアルの見直し作業など行なっているが、全ての職員が落ち着いて対応できるように、繰り返し実践的な勉強会が必要だと感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	外部・内部研修に参加し避難訓練を定期的に行って実践に役立てるよう取り組んでおり、多機能に活用できる防災頭巾を手作りして災害時に備えている。	防災マニュアルに沿って、年2回の避難訓練を実施している。関連施設との協力体制もあるので当面の不安はないが、最低限度の備蓄は準備できている。手作りした防災頭巾は常に利用者の身の回りに置いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬の念を持って、言葉使いに気をつけて、優しく接するように心掛けている。	トイレ誘導や日々のケアの中でも特に言葉遣いには気を配っている。利用者の呼び方も本人に了解を得た呼び方で呼び、気持ちよく過ごしてもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりお話を聞いたり、耳の遠い方には耳元で話したり、ジェスチャーを交え理解しやすいようにコミュニケーションを取り、自分の気持ちを表して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重し、気持ちを汲み取りながら、安心して生活していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや髪をとかしたり髪留めなど、鏡を見ておしゃれを楽しんで頂いている。また着替えの時は職員と一緒に衣類を選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は音楽を流し、昼食は職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。またメニューと一緒に考えたり、お盆拭きなどをしていただいている。	食事は隣の関連施設から届き、利用者と職員が同じものを食べている。準備や片付けはできる人にできる事してもらっている。調査日には男性の利用者が衛生のためゴム手袋を着用して盛り付けを手伝っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については法人栄養士が適切な栄養摂取ができるよう計画を立てている。食事や水分摂取量については24時間シートを活用して一目で一人一人の量と状態が把握できるように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、状態に応じて声をかけ口腔ケアを実践している。自力で、できない方には職員介助で行い、夜間は義歯をポリドント洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく布パンツで過ごしていただくようにしている。一人一人の排泄パターン・サインを把握してトイレでの排泄を促している。	オムツの使用は現在寝たきりになっている利用者のみで、その他の利用者は自立または声かけによる誘導をしている。自立の利用者は見守り、汚れがないか確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行いパターンを把握できるようにしている。運動と水分摂取に留意し、状態に応じ腹部マッサージや医師の指示の元、下剤を使用し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴で対応し、ご本人の気持ちを大切に、好みに応じて入浴剤等も使い楽しんでいただいている。中には入浴を好まれない方もあるが、清潔保持の必要性を説明し取り組んでいる。	家庭的な個浴で、週に2回ではあるが一人ひとり湯を入れ替えて気持ち良く入浴できるようにしている。入浴は個々に向き合える機会と捉えて利用者の声に耳を傾けるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活スタイルで休んで頂いている。日中は居心地のよい場所ですごされ、夜間目覚めてもホールで安心して過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬情報を把握し、状態の変化があれば、主治医に報告・相談を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物量み・お盆拭き等の家事や制作物・カラオケ等、その方の能力を活かして、張り合いに繋がるような活動・楽しみ事をして頂いている。また歌・お話・折り紙等外部からボランティアさんの来訪で楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添った外出支援は難しいがお天気の良い日の花壇や公園の散歩、お祭りやお花見・紅葉狩りなどに出かけ家族や地域の方々と交流している。	お天気の良い日に近隣の公園で散歩したり、定期的開催される市で買い物をしたりすることが楽しみになっている。また、隣の関連施設でのレクリエーションに極力参加するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て現金は管理しており、外出の際の商店での買い物や祭りのお賽銭で利用者に使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から贈答品が送られて来た場合など礼状を書いたり、お礼の電話をするなどの支援をしている。また年賀状を家族や大切な人に出して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には花や季節を感じる制作物を飾り、また温湿度計で快適な居住空間を作るよう、心掛けている。窓からは朝日・夕日・海の景色等を楽しんで頂き、日光がまぶしい場所や時間帯はブラインド等で調整している。	建物全体がバリアフリーで天井は高く明るい。リビングの窓からは食事をしながら伊勢湾の船舶の往来を望めるなど眺望は格別である。キッチンで調理をしながら部屋全体を見渡せるように設計され安心である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ある程度、座席は自然に決めておられ、近くの方と会話を楽しまれている。その時の気分で食卓テーブル・ソファ・居室と自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や身の回りの品・写真などを置き、自分の作品やプレゼントされた品なども飾り、心地よく過ごせるよう努めている。	居室は利用者の持ち込みのベットや家具が配置されているが、備え付けのクローゼットがあるためすっきりと片付いている。カーテンを開ければ部屋からも日の出が望める。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、生活空間が見渡せるようになっている。共に生活する仲間として持てる力を出して頂けるよう配慮している。		